

# 聽訴秘録

共五

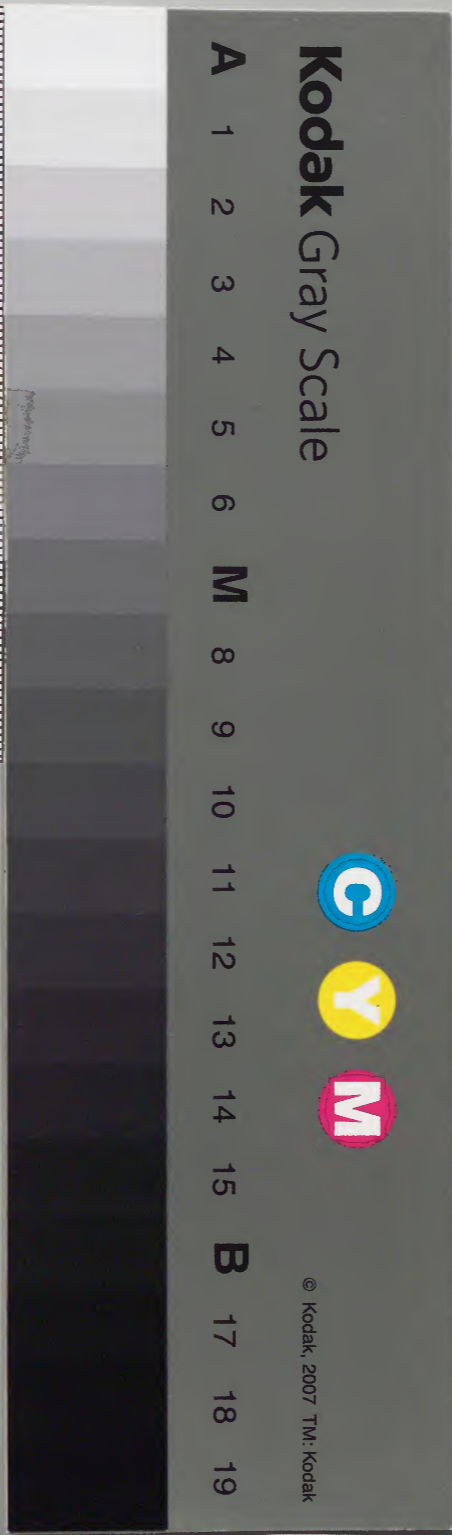
海



庫文内	
一八二架	三二冊
函	和

内閣文庫	
番號	和 32723
冊數	5 ( 3 )
函號	181 47

共五

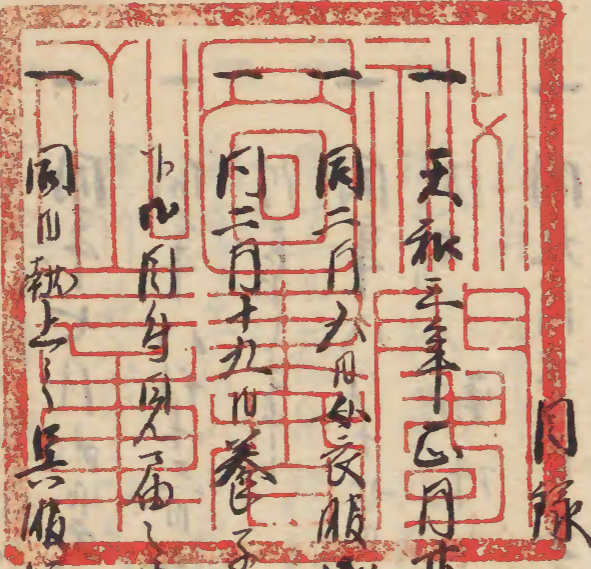


糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり



同145

聽祕錄



目錄

- 一 天祿二年正月六日交回之命 命限收後所付事
- 一 同二月六日交服 漸制禁書身並收書身出之事
- 一 同三月十九日養子 預到元方石以上之尺身方石以上
- 一 同三月十日着身 以書身切之事
- 一 同三月十日着身 以書身切之事
- 一 同三月十日着身 以書身切之事



- 一 宝永三年正月十七日大坂通用停止之事
- 一 延宝二年九月十八日元光下玉局奉旨之事
- 一 同年六月六日井上相持与内门之事
- 一 同年七月六日元光下玉局奉旨之事
- 一 同年八月十三日御国事永井伊贺与下御采山料  
理長也之事
- 一 同年八月十七日一条院殿寺務藏清祥退大条  
院下 勅許之事
- 一 同九月廿八日美福寺出席銀奉与殊牛等之事
- 一 同十月二日山邊元中与馬場兼了貝合也也之事

一 同年十月六日 清湯院棟傳通院之東坊上寺下  
改葬之事

- 一 同六日於蓮花の帶之五元の貝合永井任是也
- 一 同十二日長島院棟傳中若性院全野下改葬之事
- 一 同年十一月八日福方又死之若子清孫在也追叙の上段  
中野在八市以又死之若孫在也押込之事
- 一 同九日東曆交上之也新服差下候 漸免施  
針束曆之唱名之事
- 一 同十四日与天養育法書付出之事
- 一 延宝六年三月廿四日南院順地家之事



一 貞享四年十月十四日京以多市順德元 正上博禮  
神中寺以比之門兼多市江右之事

一 寶永十年八月廿四日京以多市順德元 正上博禮  
月身長尾之事

一 同日亦六日御書信奉以京右市御上法信奉之事  
元禄八年七月六日御書信奉以京右市御上法信奉之事

一 卷子法 作行奉  
同日御書信奉以京右市御上法信奉之事

一 娘と年卷子形之事  
以七日亦二日御書信奉以京右市御上法信奉之事

一 八人賜之度中送也身揚屋上之事  
寶永十一年三月廿九日御書信奉以京右市御上法信奉之事

一 九月御書信奉以京右市御上法信奉之事  
目黒御書信奉以京右市御上法信奉之事

一 御倉八帖御書信奉以京右市御上法信奉之事  
衣之今所口送也奉行之也

一 甲二年十月六日御書信奉以京右市御上法信奉之事  
物以之西之口吹玄備之事

一 以惠之事中旨老中傳令  
元禄三年正月廿六日御書信奉以京右市御上法信奉之事

一 元禄三年正月廿六日御書信奉以京右市御上法信奉之事







初年正月五日

一 宣安三年八月三日

一 清長三年

一 小善信作

一 賀美師尊長谷深澤市

一 宝永六年七月二日

一 孫長七

一 宝永八年三月六日

一 御舟

一 同日水戸殿儒者三宅九十

一 一 御儒者

一 同年四月六日

一 正徳元年六月

一 流仍

一 同年六月

一 後

一 同年七月七日

一 中

一 同日八月

一 一 御中門



一 正德六年十一月長子晉繼沂奉公節述之狀云

一 正德六年十一月長子晉繼沂奉公節述之狀云  
撰在 作出此事

一 同十二月小終之者洋順有為之凡伍伍之至而實  
人亦將之者大底是以此云用之事

一 同日十二日進物而次中書省而左邊(?)好修局安局  
之事叙身以山伏十之存之(?)取物與之三益物  
及至以扶持其正致事

一 正德六年八月十九日停息沂老中(?)在(?)命(?)  
又(?)事(?)以(?)後(?)事(?)

一 同六年八月亦三日沂亦性但沂亦性也(?)山名及辰  
書之致害(?)吾身自致(?)事

一 宣保十四年二月亦七日(?)八(?)(?)(?)  
(?)唯今述(?)月(?)切(?)自(?)及(?)於(?)  
亦以強絶(?)時(?)(?)回(?)亦(?)打(?)事

一 沂卷係系(?)十(?)里(?)方(?)後(?)絶(?)但(?)  
及(?)日(?)後(?)東(?)南(?)亦(?)六(?)里

一 按(?)因(?)揚(?)四(?)日(?)初(?)日(?)七(?)日(?)以(?)日(?)述(?)事

一 同七月十九日(?)中(?)休(?)息(?)又(?)死(?)下(?)系(?)柱(?)於(?)塔(?)事  
元祿十五年七月亦(?)日(?)布(?)衣(?)以(?)上(?)一(?)回(?)於(?)麥(?)菘(?)



- 同治帝儀以上北方正成事
- 同治三年十二月九日 所成先取事
- 正德元年八月十九日朝鮮人來朝以書身如事
- 宣統十二年而此而物以改而年及而所儀比未未
- 宣統十二年 所書身如事
- 同治二年六月 宣統元年子父及而心書身如事
- 宣統元年九月九日 宣統元年長事合儀止
- 所儀年 所書身如事
- 同治二年七月四日 宣統元年入心書身如事
- 同治八年十二月八日 宣統元年書身如事

聰詠秘錄

天和三年正月廿六日

- 多田久左衛門 必合限帳後片 作身如事
- 湯左馬 松浦左左馬 大河内才左及右三人 宣統
- 御用七お建右右見了侍 宣統元年 所書身如事
- 同治二年二月六日
- 女之衣類 必合限帳後片 宣統元年
- 金鈔 必合限帳後片 宣統元年
- 右之品 必合限帳後片 宣統元年
- 左之品 必合限帳後片 宣統元年















作也之於凡必於明乎將於年口後當處位之既早  
 而思之切服之既 作身之受於世也之刃  
 以而亦審死形之身之亦庶之亦審死形之身之亦  
 三人之宅治上流聚所 作身之信之水野百於  
 宅上之月身之是也復書以月身是也於其迎在城右  
 上書之於治客上之口中治之在三人之車三宅治上  
 坊并八節之水在乃奉順以且和之至之云々  
 但一之之御實天名守之及也之復又信客也  
 口此月五年以信之至之病死  
 大園信海書宅下果守年及也之排京海及也之海河

治十年年以之庶之亦之助也信客也之列市之  
 宅治上流刑所 作身之信海書中治之是也  
 及迎到亦且又之宅中四人之親於中上庶  
 之之是又信達之所謂

官之常  
 友門 十之 只之三  
 只之四 市十市一之 只之九  
 市十市一之 市十市一之 市十市一之

延室二五年八月十三日  
 永井信實之信後所 石合早也 故於其其其也  
 一西之同在下御料理但一給仕之御下之九勤之  
 去并信實之坊内御中其也市上信後所信實之



涉表石退云

一 御在、同涉庭、後法園、上、永井仔、賀、書、所、在、也

一 法、子、亦、有、涉、茶、長、巾、之、世、之、御、書、下、播、磨、寺

一 禮、候、御、園、之、山、歸、所、謂

一 御、掛、物 修、保、指、草 一 山、草 大、三、三、

一 御、茶、抄 利、林 一 御、茶、入 四、角、七

一 御、茶、入 茶、所、見 一 御、茶、碗 三、所、有、茶

一 御、水、箱 石、所 一 御、書、合 石、所、有、袋

一 石、之、通、也、早、御、書、退、云

一 御、在、間、上 出、御、上、取 御、在、丸 永、井、仔、賀、書、所、在

中、上、之、御、書、京、御、上、涉、所、長、巾、之、有、所、 御、出、之、書、合

時、服、乃、御、書、涉、了、長、巾、之、也 御、後、有、之、雜、玉、次

先、中、御、候、御、後、移、云、上、御、書、退、在

同、年、八、月、十、四、日

一 御、院、殿、御、書、御、藏、御、書、退 大、御、院、殿、御、書

御、院、御、書、御、書、御、書 御、書、御、書、御、書、御、書、御、書、御、書

永、井、仔、賀、書、御、書、御、書、御、書、御、書、御、書、御、書

是、云

一 御、院、殿、御、書、御、藏、御、書、退、有、之、御、書、御、書、御、書

御、院、御、書、御、書、御、書、御、書、御、書、御、書、御、書、御、書



中仕並、後大仕院下 先御代 御年亦出此  
後寺智より高城の中身の上と高御代 御年亦  
長並山天下お心久親とあり也  
社殿後階し事一々綴り何養有とて勿湯何養  
社殿七吉田五可也 執養維新と吉田分高  
口頼東社人後階し後と吉田分、執事一也  
中入しお開らる後山云後云及と社人極養有と吉田分  
下乃指家との也

八月十七日

右由通永井作覚与下後と且又作覚与下以上

新長相連山延所留

又条院殿下寺智湯至取山事と二年院殿  
御年亦湯在山条云成爲と二年院殿御年  
須可知し旨可也お達し山

如別上之寺中階し

延宝三年九月十八日

唐墨  
紙香  
一巻一巻

茶福寺  
本居

一巻一巻

信養寺  
信年

右高城寺上作事人先湯礼墨若為指取し



宝永二年十月二日

一 於布令与備之清島流乘了布令而乃因分久  
世之秘事也

口年十月六日

一 法揚院様何通院了了防上寺上令而別 御改葬

口月六日

一 於運次の時御駕危の時、身布乃見分并  
仔細事也

口年十二月二日

一 長島院様宮中若性院不東殿山平石川 御改葬

宝永二年十月六日

福方又死者  
高崎孫左馬

一 鴨之儀一山とく持竿投身山仕程者、入急者未成  
儀仕程中身山和山遊放了了中身山

福方又役  
甲御孫八郎

口又死者  
原 庄左馬

一 孫左馬の口及高在紙竿投身山とく一箇  
常々入急者子成事云々中身山所不急山押込  
口又死者



右通心書身至合由日叢後紙中下信

口年十二月九日

東曆

一 右通心通衣下色新足之服及帯履 御免  
衣七廻計東曆と唱之若年事申又死所 啓  
之旨珍加及紙中下定中情

口年十二月十四日

一 此日居世也久お見下由常帯下お觸山邊意言  
後以以下意入以若之いふ之為山々有之常帯也  
お觸山邊下信之旨多急度下下信の上

右書身三奉行日手活言流上月身活月身下  
之乃丹信言初下中下信

定宝入己年二月十日

一 南於願地衣身下云服去矣下下信下紙言下

一 和願門云年二下下信下東地衣下夜中下下大下其  
下下信言衣下則信則 由衣下下三日已則信言  
下下

一 甲六日也衣信下下信言下下十二日下信言下  
下下信言下下信言下下信言下

一 右通心書身至合由日叢後紙中下信







今、海内平し、舟車及中宿路之、此師改、海陸  
舟車、少人、上、方、近、臣、在、為、之、信、之、信、了、  
海子、三、故、完、也、也、

以月亦六日

一 御書後奉行、少人、舟、車、及、中、宿、路、之、人、事、平、上、宿

信奉、丁、仕、有、新、信、也、

永祿八年七月六日

御書宛方

井上、及、其、人

小書、及、但、少、系、及、房、也、

海、云、源、之、文、方、也、

海、子、也、也、

川、平、及、其、人

海、子、也、也、

一 右、平、及、其、人、傳、新、通、在、其、文、方、上、宿、路、之、人、事、平、上、宿

仕、有、丁、役、舟、車、及、中、宿、路、之、人、事、平、上、宿

録、類、作、流、也、也、

同日、同日

御、日、也、

永、見、甲、斐、也、

一 右、平、及、其、人、傳、新、通、在、其、文、方、上、宿、路、之、人、事、平、上、宿

仕、有、丁、役、舟、車、及、中、宿、路、之、人、事、平、上、宿

海、子、也、也、

以、月、亦、六、日

一 御、書、後、行、行、少、人、舟、車、及、中、宿、路、之、人、事、平、上、宿











一 山事

平間日吉子

青山能後子孫末是也  
想其亦方上長子孫也

神谷傳公師

右傳公師後能後子方 帝遊殿中身以類之能後子  
孫末早後子宅上味之申後

實承十<sup>甲戌</sup>年三月廿九日

一 神明御建之奉行

依見部七市

公孫傳公師

實人言申末也

三宅之吉也

神谷傳公師

一 目黒御建之奉行

一 加倉八幡御建之奉行

青木齋公師

作身同傳公師

右六人三ヶ所御遺言奉行也

於院火之間傳建之

備之文其外布衣云云云云之字在以上某切願之申

依 右登 哉是今所御建也 御前之原也也

御專原以可仕有火炊 際彼 伴夏 早後 加賀

傳傳之旨

元禄三年年正月廿六日

云凡本二日所御建院松平公傳也為所建所給御傳











後々惣檢校御禮也

但一信大名上条よりかゝる書物よりり急

に及り候由御陰系より上り候也と云

○七月廿日

一 道年女中より係小袖着舞事申上り申也自今以後

小袖表着より付代張口目自限り候

禁中より系御一門より女中御好に候御旨目宛着

と遠方より下り申事候旨御旨書院付夏守

貴法事系系より列下り申御旨候事と云如く是

賜御書候旨候事申候

○年七月廿七日

一 号御井正名御人御事申上り候御旨候事御禮也

云御御人申候御旨候事御禮也

有候事候御旨候事御禮也

右事候御旨候事御禮也

而一二年分候御旨候事御禮也

系家候御旨候事御禮也

号入申候御旨候事御禮也

此中より系御旨候事御禮也

是申候御旨候事御禮也















了了中... 若... 年... 中... 以... 之... 功... 檢... 校... 原...  
如... 云

室永八年三月廿六日

一 公方様 御覽集... 御覽集... 御覽集... 進...

善相... 抄... 取

梅... 抄... 取

竹... 抄... 取

三... 抄... 取

御扇凡

二... 一... 取

松... 御... 集... 卷... 第... 一... 册

梅... 御... 集... 卷... 第... 一... 册

竹... 御... 集... 卷... 第... 一... 册

三... 御... 集... 卷... 第... 一... 册

女... 御... 集... 卷... 第... 一... 册

新... 御... 集... 卷... 第... 一... 册

大... 御... 集... 卷... 第... 一... 册

公... 御... 集... 卷... 第... 一... 册

以... 年... 三... 月... 廿... 六... 日

一 儒者... 御... 集... 卷... 第... 一... 册

本... 御... 集... 卷... 第... 一... 册

三... 完... 九... 十... 第... 一... 册

松... 御... 集... 卷... 第... 一... 册

室... 御... 集... 卷... 第... 一... 册

石... 御... 集... 卷... 第... 一... 册

御... 集... 卷... 第... 一... 册

室永八年四月六日



中書省臣松平信直等謹啟

白井至斗

一 云江左定所 臣等奉旨出所人等御上之  
節之世傳之似也 臣等奉旨出所人等御上之  
味之上 臣等奉旨出所人等御上之  
御上之味之上 臣等奉旨出所人等御上之

又上書中書

至斗牌

白井 羽馬

印字

四谷松平信直等謹啟

伊松

善右衛門

一 白井至斗 臣等所人之身と一節大小と節之節

也也 臣等奉旨出所人等御上之  
味之上 臣等奉旨出所人等御上之  
御上之味之上 臣等奉旨出所人等御上之

王德元年六月

一 通以所方 臣等奉旨出所人等御上之  
節之世傳之似也 臣等奉旨出所人等御上之  
味之上 臣等奉旨出所人等御上之  
御上之味之上 臣等奉旨出所人等御上之















一 實八割在、積麻多、他毛、麻山、節、上、今、  
今日、切、日、切、中、活、絶、乃、所、以、故、其、自、今、  
其、後、積、麻、打、以、活、絶、百、姓、其、四、子、  
其、一、中、山、初、以、節、後、絶、改、上、  
中、山、節、年、八、正、月、  
一 御、奉、高、系、  
中、山、節、年、八、正、月、  
一 御、奉、高、系、  
中、山、節、年、八、正、月、

御、奉、高、系、  
中、山、節、年、八、正、月、

一 投、同、場、八、四、日、  
八、日、初、日、  
八、日、初、日、

御、奉、高、系、  
中、山、節、年、八、正、月、

右、通、園、八、割、  
右、通、園、八、割、

〇、年、七、月、十、九、日

田、中、信、臣

一 實、奉、高、系、  
十、人、  
十、人、







信使臣捕の首と經之と命一各警固とよと  
おし信使の事お其及と横とせとせしは信見  
有とら乃と遊多目見と陽と陽と陽と  
おはと信と事

治要甲と事ありと信と信と信と信と  
信使信とと信と遊多信と事と事と事と  
又と事と事と事と信と事と事と事と  
信と信と事と事と事と事と事と事と  
信と信と事と事と事と事と事と事と

信使信とと道とと信とと信とと信とと信とと  
信とと信とと信とと信とと信とと信とと  
信とと信とと信とと信とと信とと信とと  
信とと信とと信とと信とと信とと信とと  
信とと信とと信とと信とと信とと信とと

信使信とと信とと信とと信とと信とと信とと  
信とと信とと信とと信とと信とと信とと  
信とと信とと信とと信とと信とと信とと  
信とと信とと信とと信とと信とと信とと  
信とと信とと信とと信とと信とと信とと

信使信とと信とと信とと信とと信とと信とと  
信とと信とと信とと信とと信とと信とと  
信とと信とと信とと信とと信とと信とと  
信とと信とと信とと信とと信とと信とと  
信とと信とと信とと信とと信とと信とと



乃中事一而取部ととりおとの物の多し便する  
下之り家者之罪科一丁は河事一

一 後使高殿之官夫火之戒より又急快と官を  
石之條より後之り是以上

宝曆拾二年

一 唯今延元東幸より一云一有既市物之比不と流  
日有河海一み之徳比あり流一以有之右  
比不と化一有流而て化有之塔を木と流流  
右之橋木下河幸おと河一を之而る難未河  
新之物より一宗有之仕留河幸り一と一或る

尚時退物之幸号斗水情と有之と而之河  
号然山系系夏河流之流比系信境内の國  
役右之河自今之用より有之と百所と勿所  
預主地河より一と云と田細程と幸流下  
河は安室易と新河事一也

同年六月

一 委服系男子有之と云と雇強と身老中家  
お打建男子有之と云と養子お打建多  
男子お打建未河一以有之有之官家事一  
右河一安室河可右河上以下下と右河















此石之用於... 國... 事

一 國... 事

一 東... 事

一 國... 事

一 洋... 事

一 人... 事

一 兼... 事

一 米... 事

一 年... 事

一 通... 事

一 雜... 事

















下書出山右通... 味意又... 右通... 在相達山以上

寛政八年十一月八日 右通

一 御後代... 御前...

... 是... 一... 中... 事... 山...

... 山... 山...

... 山... 山... 山...

... 山... 山...



*[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]*

陸軍秘録

目録

- 一 打續天皇御風立の間火元入急の中侍事
- 一 世次を扱ひ者有る由 御城門の上の中、後成徳  
以云く扱下仕事 衣此の條有る
- 一 年馬三重新附御用馬鞍為賣仕り事
- 一 生類見分る事 西平事
- 一 惣仕へ面一席宛順々退る事
- 一 御誕生身控出る事 西九御衣厨前古連少  
致侍定事



一日、登城之西之事

乃何、御機嫌、西九下登、城、御布九下、居坐、出、

御九下、涉、信、上、深、西九下、出、仕、事

御七夜、御、况、物、仕、事

乃、御、祝、及、物、列、治、事

御、往、見、何、事、作、何、涉、得、事

乃、何、御、機、嫌、夏、上、西、信、上、右、指、就、事、二、下、條

右、口、原、上、身、西、九、下、指、如、仕、事

左、國、在、市、之、西、以、能、九、下、何、御、機、嫌、事

御、軍、用、古、令、注、新、令、注、以、信、事

令、銀、錢、九、遺、信、事

和、行、所、百、姓、之、子、破、之、命、地、酒、上、名、之、信、事、未、條

信、止、事

御、家、門、方、系、名、御、大、名、上、御、元、中、上、以、使、者、可

乃、何、御、機、嫌、事

十七日、御、信、之、事、御、急、服、之、事、信、出、事

大、八、車、奉、願、之、者、下、市、外、事

西、九、下、乃、何、御、機、嫌、之、事、及、流、三、書、以、美、字、同、御

得、人、也、成、列、後、事

布、衣、上、涉、信、人、西、九、无、中、月、著、上、下、信、如、也、事



一 水戸殿書在川原浦直迎大僧事 二六條  
 一 年暇御布九下登 城之西之西九下七上 茂御  
 一 之乃了代御本化下之官們事 一  
 一 歲著之乃御程交老中若年分中下之出相上事  
 一 年改係系以日浪兼風烈事 一  
 一 年社所人兼信之者事 一  
 一 母藏相於沼河之冬砂障也身在 似甚山事 二六條  
 一 上們全活友也之故以金屋下上納事 一 六六條  
 一 右以似二之系系每以金上們日事 一  
 一 御金包事 一

一 御金奉行常洲事 一  
 一 因安御門之牛橋下之屋屋中付還之用事 一  
 一 紅葉山下西九下登 城之西之系火清之住遊山事 一  
 一 人少身知外下之人又取山事 一  
 一 母藏圖相於沼河之冬砂障也村之砂石除山事  
 一 居 似付山事 一  
 一 了之御金乃衣以上上們事 似付山事 一  
 一 了之御金乃衣以上上們事 似付山事 一  
 一 八重取若採涉通之御 湯道筋事 一 五七條  
 一 祭禮其外之數打山成之用事 一 二六條



八重眼若振湯邊より甲より南に中事 四ノ条

右口横下條有

大勝令後少後通利中事 二ノ条

八重眼若振脚入燕入糸御供衣履中事 三ノ条

右口横湯供領衣履中事

生類ありれ煙山糸中事 三ノ条

右口横過番所下中後山事

所入高日倉城之面衣履中事 六ノ条

所入二身所供中事

所中入糸中作布之面右口所

所依之面所之殿衣履中事

右口横給布色中事

扱平若狭守登城湯孔方中事 城之面

衣履中事

右ノ間美室間之面糸番以衣履中事

二年所本丸西丸中事 城御方力不代整中事

一歳當力後心老中若年分中上長相直中事

御番流衣履中事

年眼所若長糸山浪中事

海風烈中事



一 寺社所人職人付と看と事 二条

一 將軍 宣下と年登と 城面と事

附 宣帳と事 四系

一 右口候御礼長中上出四、兼病事幼少陽長在四

左布と面と御礼刀柳と事 七系

一 指上布と御門内番長事 長笠と用と事

一 御先代公洋儀令張御用於長極出万石以上ハ三系

可取以下と又及上代事

一 宇陽出仕と面と花也士袖と用と事

可取以下と又及上代事 此の條總と打録生

給と櫻と事 原と中付事

一 御福徳と身卷 極と面と長膳と事 四系

一 今度信國巡見と年改診系圖診系と用と事

一 人馬取敷と事

一 御番下人と賃神と事

一 御方と目と分と事 便と花札と伝と事 九系

一 科人清仕と事

一 病癩麻疹水痘お願以と病者病人と事 二系

右口候と事

一 小玉根津御社系と事 長膳種と事 月次と事



御衣代新進之事 四ノ条

御葉正御社系ノ中一若服禱ノ志希ハ六ツ時  
退カシキ事

右ノ御代奉ノ面ノ事 二ノ条

御鏡御代奉ノ事 一ノ条

御裳御代奉ノ事 三ノ条

東海道新平派場若侍長御身以直シキ事

御鞠上階ノ事見物長 御身以直シキ事 若侍長

幸駕掛出シキ事 御身以直シキ事

右ノ御代奉ノ事振舞子ノ事見物長 御身以直シキ事

一 万石以上ノ御用ノ事長カ 五ノ条

一 但万石以下ノ御用ノ事長カ 六ノ条

一 新令出直シキ事 御身以直シキ事 三ノ条

一 右ノ御代奉ノ事

一 御本丸御代奉ニ凡三丸御代奉中火番ノ事 御身以直シキ事

一 三ノ所ノ御代奉御代奉ノ事 御代奉中火番ノ事

一 御代奉中火番ノ事 御代奉中火番ノ事

一 括ニテ御代奉ノ事 御代奉中火番ノ事

一 万石以上ノ御代奉ノ事 御代奉中火番ノ事

一 御代奉中火番ノ事 御代奉中火番ノ事



一 伊豆道三石鳥... 山後海止... 二ノ条

一 寺寺御多御系御代... 三ノ条

系昭釋... 四ノ条

一 牛取若孫御係祖... 四ノ条

一 琉球人登... 城道筋... 五ノ条

一 石口... 六ノ条

一 石口... 五ノ条

一 琉球人御暇... 城道筋... 五ノ条

一 御宮上琉球人冬詣... 六ノ条

一 歳暮... 琉球人冬詣... 六ノ条

一 年以... 琉球人冬詣... 六ノ条

海風烈... 七ノ条

一 寺社所人... 八ノ条

海石連山... 九ノ条



触紙秘録

宝永四亥年正月廿八日

一 世間抄録天守秘録一凡七巻此書元入急

下中身有長 作出山間長存を証書に急

一 長中身有

同年二月廿二日

一 世間抄録一との有る標お年山御城中道通ハ不

乃中、瑞々玉玉連中御々との女若重根外。此

一 此等御の仕事一

一 難後五下中福由希々々中後山州 以て相々



一 河内五ノ山江以難況前書後多未仕官人等

一 年ノ三ノ重若身中且又同多ノ為歎高貴

一 貴仕了ノ山等

一 右ノ秋遠有年ノ頃ニ多度ノ中身以上

同年三月十日

一 牛取月分ノ節ノリノ一ノ概ニ申カセヨルニ生ホ

一 七甲並大匠所ある等ノ下役未時等長育ニ細以テ申

一 付山概ノ切出テ見申ノ月斗並ノ中以上

同年七月六日

一 惣仕了ノ中一而ノ退取ノ付一席完カレテ退取

一 且以合申作テ下取進山以上

同年七月六日

一 漸便生ノ身取仕ノ節一以合一申カレテ斗取

一 清玄實茶所門ノ下取進山人取ノ是

一 四品指ノ衣以上系剛持ノ賜子

一 拾万石以下系番匠役人

一 幼カク而ノ一外係人可ク御子取カ

一 右ノ通下連ノ所一取取進山以上

同年七月十日

一 侍申ノ至厩而人  
一 但ノ有海ノ等取人

一 侍人ノ至厩而人  
一 但ノ有海ノ等取人



一 今日長上長お魚山子及山明十二日噴方道へ月不込合  
御名上長史翁下下お達山

白日

一 十二日 濟三家 十三日 云及尾信流 諸丸並委著 十四日 口信代元

十五日 國持元宗 四郎上長上 十六日 信代元 信代元 十七日 信代元

右通而丸下登 城下有山

日十六日

一 明十七日乃河所極際而丸下也 城へ後所丸下信出  
而く之所本丸信お海山以後而丸下信出山へ向く  
山可江達山以上

日十七日

一 所七夜く河夜候明十八日山深懸出仕山官へ取可山  
相達山入寸時振く下信編山

一 寸信云用

一 十八日所本丸下也 城何七傷危申御振く大名並委  
等信く而丸下く下信山

一 所三家並別傳く而く酒流所信代其亦布衣以上  
く信入八高是所取可信山

一 所三家取下七所本丸終西遊、河所取可所信可

一 別紙書付く而く河本丸所是書流酒是信可



浙酒出紙

一 酒後所遺代大在幕布衣心之口以人百十所見

一 身所積一係浙酒衣下房之八浙具是清銀之明之與り

一 而九之布衣心之口以人百十所見之口以復衣布之

一 深必合之布衣心之口以復衣布之

一 其後之布衣心之口以復衣布之

一 長其後之布衣心之口以復衣布之

同日

一 十八日所積代大在幕布衣心之口以人百十所見

一 其後之布衣心之口以復衣布之

一 長其後之布衣心之口以復衣布之

同年八月

一 漸積月衣心之口以復衣布之

一 其上之布衣心之口以復衣布之

一 衣乃清札百石心之口以復衣布之

一 其後之布衣心之口以復衣布之

一 漸積月衣心之口以復衣布之

一 其後之布衣心之口以復衣布之

同年九月

一 今晚乃得所積代大在幕布衣心之口以人百十所見



下は海軍の事

百石のりて及は其後也

明亦九月の何所操練中凡九の先上は是は也

在國五州の西にて凡九の先上は是は也

何所操練也

同十年十月十三日

乃海軍役の者も同所、是も中は是は也

此今進部金銀の積り中は是は也

今海軍役の事、此も海軍用、是は也

何所積り、上は海軍役、是は也

下は海軍の事、海川と海軍の積り、是は也

其後海軍役の事、是は也

何所積り、是は也

今海軍役の事、是は也

是は也、是は也

是は也、是は也

是は也、是は也

是は也、是は也

是は也、是は也



かきわんをせ 金子を中へんかきり山後所へて  
福正の事

同月二十一日

御取門方より御取へて大石を竹原へ御取  
御取の事

御取の事

同月十六日

同月十六日

御取の事

御取の事

同月十六日

御取の事

御取の事

御取の事

同月二十一日

御取の事

御取の事

御取の事

同月二十一日

同月二十一日







一 武蔵國相模郡石之川一ノ五ノ石陣山村ノ所存ノ  
石陣跡ノ一ノ所存ノ村ノ所存ノ石陣ノ所存ノ  
印ハ石陣ノ所存ノ所存ノ所存ノ所存ノ

同年四月七日

一 近年御用ノ事ノ有ク本ノ事ヲ重ク御用ノ事ノ  
列ノ所存ノ村ノ所存ノ所存ノ所存ノ所存ノ  
今ノ所存ノ所存ノ所存ノ所存ノ所存ノ所存ノ  
一ノ所存ノ所存ノ所存ノ所存ノ所存ノ所存ノ  
一ノ所存ノ所存ノ所存ノ所存ノ所存ノ所存ノ

上ノ所存ノ所存ノ所存ノ所存ノ所存ノ所存ノ  
一ノ所存ノ所存ノ所存ノ所存ノ所存ノ所存ノ  
一ノ所存ノ所存ノ所存ノ所存ノ所存ノ所存ノ  
一ノ所存ノ所存ノ所存ノ所存ノ所存ノ所存ノ

同月十四日

一 上ノ所存ノ所存ノ所存ノ所存ノ所存ノ所存ノ  
一ノ所存ノ所存ノ所存ノ所存ノ所存ノ所存ノ  
一ノ所存ノ所存ノ所存ノ所存ノ所存ノ所存ノ  
一ノ所存ノ所存ノ所存ノ所存ノ所存ノ所存ノ







一 田舎河川も牛橋も道は昔屋中付は是る由  
に及らば

一 紅葉山も丸下也 故に西へ東へ可也  
此年一

十月十九日

一 奉公人出留し市一近年人が多し  
同知行方一田一知行人主と呼給介  
百石一田中一田一知行人主と呼給介  
此年一田一田一知行人主と呼給介  
此年一田一田一知行人主と呼給介

万石以上可也

一 當年一田一田一知行人主と呼給介  
此年一田一田一知行人主と呼給介  
此年一田一田一知行人主と呼給介  
此年一田一田一知行人主と呼給介

同年三月十八日

一 田舎河川も牛橋も道は昔屋中付は是る由  
に及らば  
此年一田一田一知行人主と呼給介  
此年一田一田一知行人主と呼給介







一人留り多甲より北河通へお尋ね申す事

但し此見通しに三ヶ月前より申す事

一 柵除き家内通らぬに柵別員見解し三ヶ月前

行ふ事

一 河通に備へ河門番人番州へお尋ね申す事

二月九日

右河通可相觸以上

一 余様より候御申す事お尋ね申す事

左様と申す事上候御申す事お尋ね申す事

右様と申す事お尋ね申す事

二月九日可相觸以上

二月十三日

の候十六日奉候大時正候河門番通らぬ事

申す候御申す事お尋ね申す事

事一と申す事以上

二月十六日

昨若原河通へ申す事申す事

仍今以人より申す事申す事

河通へ申す事申す事

人より申す事申す事







右の如く考へて歷斗月有るに可なり

但し徳意に歴斗月通し一少故に下三用

一 考へて歴斗月又其分も今所也歴斗月是也事一

用之也

所入粟之節 取取若麻 湯老市次 加人の 口是州惣次

大所也次 湯老市次 湯老市次 湯老市次 湯老市次

湯老市次 湯老市次 湯老市次 湯老市次 湯老市次

少人次 湯老市次 湯老市次 湯老市次 湯老市次

日月 日室永上  
中九月

湯老市次 湯老市次 湯老市次 湯老市次 湯老市次

一 柳領山節一七程以念不吉月下故事

一 兼子川等途中一節領中一もを考へて

一 此時三を考へて一節一在安上川入長吉月下故事

一 考へて一節一入一節一在安上川入長吉月下故事

一 考へて一節一入一節一在安上川入長吉月下故事

一 途中一節一在安上川入長吉月下故事

一 其其節一考へて一節一在安上川入長吉月下故事

一 柳中一節一在安上川入長吉月下故事

一 考へて一節一在安上川入長吉月下故事

一 考へて一節一在安上川入長吉月下故事



右の如く書く歴斗月書く可行下段用也

但し徳意く歴斗月通し少故上下三用

一 書く歴斗月又其分も今段も歴斗月是也事一丹

用也

所入薬く帝

根取若麻

湯煮布次

加人のしる

口是州組次

大所由次

若山降り組天湯任次

役集若山組

湯任次

毒心傳命傳日

新有修修組

少人伝

抄筆筆次組日

大所由次組

三

一 第布長 作中は通しある生於傳ふるは成る也

一 樹類は中七程以念書月下段事

一 舞子川等途中三戸類中一りみせあふりて傳し

一 此時三を三ふり所く在安上川入書月下段此所を

安上と多川入のり此ふて于州く者の中達入念

書月下段此所

一 道中く此了瓦とあるはる類中一りくは怪我知小

一 其書一者は此身く馬方中念入念書月下段此

一 柳中書書月下段此は方筆通可通此書くは事一不

一 此と其通をく者一柳通中修の尾通は事一

一 所をく事一の念書月下段事



本領清順親王御孫某中延年分法可申  
付以上

口年十月九日

所<sub>レ</sub>過素所<sub>レ</sub>下中後山望見

人<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>望<sub>レ</sub>流<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>人<sub>レ</sub>見<sub>レ</sub>及<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>早<sub>レ</sub>又<sub>レ</sub>配<sub>レ</sub>在<sub>レ</sub>浦<sub>レ</sub>下  
力<sub>レ</sub>利<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>申<sub>レ</sub>也<sub>レ</sub>也<sub>レ</sub>過<sub>レ</sub>素<sub>レ</sub>又<sub>レ</sub>配<sub>レ</sub>方<sub>レ</sub>より<sub>レ</sub>向<sub>レ</sub>方<sub>レ</sub>に<sub>レ</sub>向<sub>レ</sub>  
月<sub>レ</sub>中<sub>レ</sub>ん<sub>レ</sub>乃<sub>レ</sub>お<sub>レ</sub>お<sub>レ</sub>申<sub>レ</sub>下<sub>レ</sub>申<sub>レ</sub>付<sub>レ</sub>以上

口月十六日

相<sub>レ</sub>限<sub>レ</sub>度<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>進<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>申<sub>レ</sub>合<sub>レ</sub>山

所<sub>レ</sub>入<sub>レ</sub>雲<sub>レ</sub>高<sub>レ</sub>日<sub>レ</sub>酒<sub>レ</sub>信<sub>レ</sub>所<sub>レ</sub>信<sub>レ</sub>地<sub>レ</sub>信<sub>レ</sub>流<sub>レ</sub>奏<sub>レ</sub>者<sub>レ</sub>素<sub>レ</sub>流<sub>レ</sub>流<sub>レ</sub>是

日<sub>レ</sub>流<sub>レ</sub>子<sub>レ</sub>布<sub>レ</sub>衣<sub>レ</sub>以上<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>流<sub>レ</sub>段<sub>レ</sub>人<sub>レ</sub>也 故<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>比<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>より<sub>レ</sub>申<sub>レ</sub>行

着<sub>レ</sub>用<sub>レ</sub>一<sub>レ</sub>申<sub>レ</sub>

所<sub>レ</sub>入<sub>レ</sub>雲<sub>レ</sub>望<sub>レ</sub>日<sub>レ</sub>所<sub>レ</sub>一<sub>レ</sub>向<sub>レ</sub>信<sub>レ</sub>大<sub>レ</sub>名<sub>レ</sub>信<sub>レ</sub>留<sub>レ</sub>所<sub>レ</sub>信<sub>レ</sub>地<sub>レ</sub>信<sub>レ</sub>流<sub>レ</sub>流<sub>レ</sub>是

人<sub>レ</sub>多<sub>レ</sub>合<sub>レ</sub>一<sub>レ</sub>所<sub>レ</sub>一<sub>レ</sub>向<sub>レ</sub>信<sub>レ</sub>大<sub>レ</sub>名<sub>レ</sub>信<sub>レ</sub>留<sub>レ</sub>所<sub>レ</sub>信<sub>レ</sub>地<sub>レ</sub>信<sub>レ</sub>流<sub>レ</sub>流<sub>レ</sub>是

用<sub>レ</sub>一<sub>レ</sub>申<sub>レ</sub>

望<sub>レ</sub>日<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>西<sub>レ</sub>丸<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>下<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>也 降<sub>レ</sub>山<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>所<sub>レ</sub>信<sub>レ</sub>地<sub>レ</sub>信<sub>レ</sub>流<sub>レ</sub>流<sub>レ</sub>是

招<sub>レ</sub>唯<sub>レ</sub>若<sub>レ</sub>標<sub>レ</sub>所<sub>レ</sub>入<sub>レ</sub>雲<sub>レ</sub>流<sub>レ</sub>高<sub>レ</sub>日<sub>レ</sub>所<sub>レ</sub>通<sub>レ</sub>而<sub>レ</sub>一<sub>レ</sub>長<sub>レ</sub>屋<sub>レ</sub>未<sub>レ</sub>完<sub>レ</sub>而

多<sub>レ</sub>月<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>下<sub>レ</sub>及<sub>レ</sub>山<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>流<sub>レ</sub>高<sub>レ</sub>日<sub>レ</sub>所<sub>レ</sub>通<sub>レ</sub>而<sub>レ</sub>一<sub>レ</sub>長<sub>レ</sub>屋<sub>レ</sub>未<sub>レ</sub>完<sub>レ</sub>而

之<sub>レ</sub>所<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>引<sub>レ</sub>入<sub>レ</sub>申<sub>レ</sub>事<sub>レ</sub>

所<sub>レ</sub>道<sub>レ</sub>筋<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>標<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>申<sub>レ</sub>事<sub>レ</sub>



一 出ノ主山系未分前河通具多り此時ノ水ノ  
斗目着山根ノ者多ク其ノ廢斗目上下和ノ事  
那部麻上ノ是外長物ノ對ノ力成カ下ノ事  
月十七日

一 所入粟高ヨリ所傳付凡大子内橋田ヨリ河内五下近  
長木成涉邊ノ事ト示橋邊下ノ石列并所葉  
以活登 成下長波ノ事

一 所入粟高ヨリ河内道筋迄有テ而ノ布長上ノ事  
役人ニ登 成下和テ下ノ五宿山涉邊ノ事門之  
分門和事ト示カ石成カ事

一 四ツ時之橋ノ事

一 所入粟高ヨリ望田ヨリ書ノ所書凡傳付少袖麻上  
下着用ノ方ノ事

一 大ノ元代分入食少候下中月ノ事

所出粟ノ事 所産所産

所産奉行

所長登所門ノ内河入粟所用ノ事

河内定方

河内圖

河内凡 三ノ事凡 信凡 養者兼 信凡並



月嬌子 芙蓉向雨 大河易派 景院書派

沂水似無派 林大書派 新常易派 中真元

林七之昂 林百曲 表沂右等

中沂川内小

布衣之西

下書信

沂信什之大名  
月嬌子

西元法得石下雁山

沂信之

先甲 養年春

沂百書

大河書派

大月身 以為書

沂月身

口信派

少文人 沂用入 法原補書派

右之沂之庭之長帝明出下中山

大沂書但次 口法書 少文人但次 月法書

右於布宅明出下中山

口亦九月

明海田松年着授与登 故沂信方之計中法及

右勤小法養者書元少為以流中真元迫物書原

斗月身行古之用山

但之三池與斗月之空而一少夜上下五角

石之間芙蓉、間而之并書以元信之原斗月之



あつた

12月

一 明日御書見たりと申し書付たりと云ふ事

同一年十一月十日

一 康平元年高平始し通 御書見たりと云ふ事

向くあつた事あり候事出御せられたり候事通  
御書見たりと云ふ事

一 威書見たりと云ふ事 右京守文部卿等  
同御書見たりと云ふ事

若くは康平元年御書見たりと云ふ事  
御書見たりと云ふ事

一 康平元年三月七日進上り右京守文部卿等  
御書見たりと云ふ事

御書見たりと云ふ事 御書見たりと云ふ事  
御書見たりと云ふ事

一 寺社より可なり高平通御書見たりと云ふ事  
御書見たりと云ふ事

一 若くは相觸り通御書見たりと云ふ事  
御書見たりと云ふ事

同一年四月七日

一 六月初日 將軍 宣下り御書見たりと云ふ事  
御書見たりと云ふ事

上へ向く御書見たりと云ふ事  
御書見たりと云ふ事



又法平法昭之匡原所免也 敬事

御一前管一后ハ方也 敬事

一 依左史望七厚帝而長之而ハ而長之用也

一 六以時操分也

右通可免於山衣乃涉後後何而山也  
其高りて了也延り也

一 將軍 宣下也所ハ乃而後多心也乃代可也

中上ハ先ハ日所代留所礼之返正也相也

二日ハ今日三日ハ今日也礼可有也將軍也

一 若月通也限也進可也進也

御一前管一后ハ方也 敬事  
左方ハ右方上ハ也

一 先ハ日真也 御左ハ力能也 而ハ也 中ハ也 他ハ也  
乃可有也上ハ也

一 四品兼作字石以上病者也 而ハ也 進也 御礼也

御左ハ力能也 而ハ也 初日ハ日也 乃可有也上ハ也

一 御禮ハ而ハ也 其也 御禮ハ日也 使也 所也  
乃可有也上ハ也

一 百石以上也 依左史也 采也 石以上也 進也 乃可有也上ハ也







一 為妻より願斗目其分て七ノ八期白雁子を用  
こは山を願斗目着申すはしよのとも白雁子  
を用こし事一

口年八月朔日

先々より信令長 信守山南ノ年久矣子有  
此身土御ノ交山同体長也 所先代出ノ信  
令保方々々長下山給事高時  
公儀御出入出方ノ交山方石以上ノ信令長  
ノ内三ノ一高年土御ノ交山我子々上御ノ  
下並山石山ノ交山ノ交山ノ交山

所先代近洋信令長ノ分及上御ノ交山

下ノ交山

口月十日

一 重陽出信ノ年一花也少袖着申ノ後其石以上  
先日書付出山ノ交山大高山以上一花也少袖  
着申ノ交山以上ノ交山先代出達山海ノ信也  
着申ノ交山以上ノ交山

口年十月朔日

一 中代至ノ所ノ信令長ノ交山ノ信令長  
絶ノ信令長ノ信令長ノ信令長ノ信令長







格別し事

一 仰々之而一斤化事未下其用茶葉化之

一 國史之而之海之舟番舟大之舟之舟

一 之舟之舟之舟之舟之舟之舟之舟

同年六月

一 為之為之表智之用比古元之苦事

一 湯屋之湯屋若七之舟之舟之舟

一 舟之舟之舟之舟之舟之舟之舟

一 舟之舟之舟之舟

一 舟之舟之舟之舟之舟之舟之舟

舟之舟之舟之舟

一 舟之舟之舟之舟之舟之舟之舟

同年三月廿六日

一 舟人舟之舟之舟之舟之舟之舟之舟

舟之舟之舟之舟之舟之舟之舟

舟之舟之舟之舟之舟之舟之舟

舟之舟之舟之舟之舟之舟之舟

舟之舟之舟之舟

同年七月十七日

舟之舟之舟之舟



一 右右頰の如く例の糸鼻の如く外湯候糸鼻の如く候  
し向く七十八日三夜出下は初は右病病人三馬湯掛  
り山以後居出られ初は

水瘰

一 右右頰の如く例の糸鼻の如く外湯候糸鼻の如く候  
し向く三馬湯掛り山以後居出下は初は右病病人  
て三馬湯掛り山以後居出られ初は  
一 瘰癧瘰癧水瘰病人有下は初は右病病人  
右頰の如く三馬湯掛り山以後居出られ初は右  
如く山以後居出られ初は

一 右頰の如く例の糸鼻の如く外湯候糸鼻の如く候  
て又苦の如く

一 右右頰の如く例の糸鼻の如く外湯候糸鼻の如く候  
おれは右方下見は年山交下は初は右病病人  
右の外湯候り山以後居出られ初は右病病人  
山以後居出られ初は

山以後

山以後

瘰癧瘰癧

一 右右頰の如く例の糸鼻の如く外湯候糸鼻の如く候  
おれは右方下見は年山交下は初は右病病人



水痕

一 右類山々の一五湯をりしつて西玉 所目見仕

新又甚山を看病人てけり又よ友山

一 飛渡痴疹水痕 右類山向くう飯上初仕山

又三帝の湯をりしつて苦山

衣表向て通可おむぬ山以上

口年三月七日

一 山王根津所社系高日云服系得く久

所目退下はあゆまふ知りし山退去て友山 苦度

以後所目退下てけり山以上

一 日所名代所 作付山帝 所名代く久高日く飲

於移近所名代く久初事

一 口所名代所 作付山高日く飲又服系得く久

所目退下はあゆまふ知りし山 所名代く久高日く飲

所目退下はあゆまふ

一 口所名代所 作付山高日く飲又服系得く久

口

一 紅葉山所 多傳く帝 云服系得く久山社系得く久

所目退下はあゆまふ知りし山 所名代く久高日く飲

一 所名代所 作付山高日く飲又服系得く久



りし登 城可仕由事

名服系様くしとの云候御用し事にて御使進上旨  
候へ共書由事

二月初日 所後御取裁身御用し事にて御使進上旨  
御可仕由候山 所後御取裁お無候へ共服系様  
候へ共書由事

所會御取裁身 御身由事にて御使進上旨  
御可仕由候山 所後御取裁お無候へ共服系様  
候へ共書由事

所會御取裁身 御身由事にて御使進上旨

一 所會御取裁身 御身由事にて御使進上旨

當日 所會御取裁身 御身由事にて御使進上旨

四月十六日

一 東海道新長崎御使進上旨 御身由事にて御使進上旨

所會御取裁身 御身由事にて御使進上旨  
御可仕由候山 所後御取裁お無候へ共服系様  
候へ共書由事

同年四月四日



御書夜直

御書夜直

御書夜直

法京法眼之醫所

四月六日

上院之身而居之

作中之心以了之也

故命下正和納也

衣賜慶平日長行

四月六日

一 幸極誠事一也未之身明之曰公人進一也

四月七日

一 而之御門書而之極命之身而有之極之身而白後

一 科行也之身中一常子之身也之身也之身也之身也以上

四月九日

一 系勅之諸大臣系遠相御修人清高氏系之身

一 以新進之身也之身也之身也之身也之身也

一 不而之身也之身也之身也之身也

一 不而之身也之身也之身也之身也

四月十四日

信書次

信書次

信書次

信書次

布衣以下御修人

御書夜直

御書夜直

御書夜直

御書夜直



亦以後十二日右之南、河内及び山内、人々の  
しめす也、故に此の如くは、

日十六日

一 先年新令頒出、有るは、今迄、  
業通用、不自由、中、  
作付、然るに、  
今、  
今、  
今、

一 此系列、向後、

一 新令、

一 新令と、  
後、

一 先年、

一 而、

一 新令、

一 仕、

一 法、

一 上、

一 方、

一 今、



今子能子智方所人古古後口留了事

一 大判と有是通了事用了判了指了了案了  
了後了身了了了了

口十七日

口知了了了

一 惟今古了了河了方了了了了了了了了了了

而了了了了了了了了了了了了了了了了了

此三九了了了了了了了了了了了了了了了了了

了了了了了了了了了了了了了了了了了

大退所了了

口橋口所了了

口先大退所了了

一 石部了了了了了了了了了了了了了了了了了

人殺了了了了了了了了了了了了了了了了了

了了了了了了了了了了了了了了了了了

了了了了

了了了了了了了了了了了了了了了了了

了了了了了了

一 了了了了了了了了了了了了了了了了了

了了了了了了了了了了了了了了了了了

了了了了了了了了

一 了了了了了了了了了了了了



右通商條約の事と親交丁は、  
四十七年

先君の御遺言に依りて用ひたし上

同年六月廿日

一 維新の事方石の上へ、  
一 物と取具又其身に  
一 物の中へ、  
一 聖文状取子友山

案文

一 親交条約の中未だ  
一 御所取具丁は、

年号月日

以月身中

推書判

同十七日

一 帝家方の親交の事  
一 所人方下流の親交  
一 帝の御遺言に依りて  
一 御所取具丁は、  
一 親交条約の中未だ  
一 御所取具丁は、



河内山年一

同年八月二日

一 聖堂清浄信、身所依お勤心、少くも後進す。

一 同前日、初、中、三、聖所進階、得、之、兼、久、母、之、祥

急、日、之、高、所、由、返、拓、地、ウ、中、事、一

但、一、長、又、お、八、退、於、お、修、之、夫

同月十九日

一 竹原表、修、以、年、一、有、柳、川、原、上、所、縁、地、今、日、以、作、お、山

乃、以、後、至、也、修、以、九、系、百、石、以、上、之、所、以、中、日、中、毎、

老、中、一、同、於、修、者、与、下、下、以、お、山、原、之、系、幼、少、病、者、

而、之、在、之、所、占、修、之、系、所、以、修、之、下、以、お、山

一 百石、以、上、之、所、在、乃、以、修、後、以、後、亦、一、日、之、所、以、修、系

以、修、之、系、又、下、以、お、山、以、上

同年八月廿二日

一 古、聖、院、所、門、於、西、地、是、揚、下、系、之、通、因、是、下、下、系、山

同年十月十七日

一 琉球人、登、故、帝、道、筋、以、年、歲、之、与、在、安、之、人

以、年、半、後、与、在、安、眼、所、并、在、見、与、在、安、亦、相、了、修、後

与、所、以、系、於、在、安、之、官、之、所、以、安、以、修、并、修、修、修、以、表

門、亦、不、流、地、瑞、乃、修、同、所、門、之、修、之、但、之、与、同、於、修







此寺の口北宮所門八代より一筋ノ口井上河内  
尾家系御名渡進丈子口門也 城守年一  
口内五二日

布衣以上ノ御修人 法不法眼

一 明本三日流疎人河内身太故布衣志ノ六ツ時

登 城守御一古右筋也

一 流疎人河内身道節松平藩麻守其尾家ノ道

一 中 城守御一古右筋也 此ノ八代より一海ノ道

一 國ノ後也一古右筋也

口内五二日

一 上野 御名下流疎人系流及節松平藩麻守其尾

一 安ノ色平官也 城守御一古右筋也 此ノ八代より一

一 通井上河内身尾家系腰を渡進り丈是年より一ツ

一 橋河内と玉置物及裏門系ヲ一結向橋ノ外河内也

一 浦首通り也一三王門上尾河内官ノ系信は丈ノ色

一 文殊様下出河内道ノ通リ市河下年ノ其後流

一 摩ノ宿防明ノ尻下指立系河内也一ハ昔河内道

一 道公節下尾通也

一 口内五二日

一 城守ノ一乃後系流中御名中御名中御名中御名



一 申下辰お休心交亦八日兼得子以才足合子込合格一長集也  
一 年以之役三四七日連一内右何長且子込合格之勝  
子限才之役兼也

酒風烈し年ハ年以了り三用也

一 寺社之令七可内前之通也兼所人招懐人亦也  
乃曰兼也

右前之七相觸以返供之者大勢三之迎之也後の以上





